

2023 年度 教育課程

專 門 分 野 (精神)

精神看護学

構築の考え方

精神看護学は、人間の心の健康について理解を深め、精神の健康の保持・増進と人間が生活する過程で生じる心の問題、および精神に障害のある人とその家族に対して援助する能力を養う領域である。

現代社会のさまざまな分野において、情報・消費社会の成熟とともに、国際化や少子高齢化が進み、人間関係の希薄さなども加わり、ストレスをもたらす要因が増大している。また、いじめや虐待問題、依存症、災害、老人の孤独や中高年の自殺者が増加する等、心の問題と密接に関係する事象が社会的問題となっている。

このような状況の中で、心身のバランスが崩れ、精神疾患が増加する傾向にあり、身体的な病をもつ対象にも精神的な健康問題を抱える場合が少なくない。逆に、精神的な健康問題が改善されないことが、身体疾患の回復遅延や悪化をもたらす原因となることもある。よって精神疾患をもつ対象に限らず、すべての対象において身体的ヘルスケアと精神的ヘルスケアを統合したアプローチが求められる。

これらのことから、精神活動に付随しておこる様々なストレスや危機と、それに対する適切な対処法（介入方法を含む）についての理解が必要である。このことは、心の健康の保持・増進を図る看護を提供することにつながるのみならず、学生自身の心の健康を保つことにも有益である。

また、精神障害者をとりまく法の整備も進み、精神障害者の生活の場は病院から地域社会へと広がり、自立支援の視点にたった保健・医療・福祉の活動が行われるようになった。そのためノーマライゼーションの考え方に基づき、精神保健医療福祉に携わる職種が連携し合い、援助する必要がある。さらに、精神障害者を取り巻く法や精神疾患とその看護への理解が必要となる。

以上のことから、精神看護学の授業科目構成は、精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ～Ⅲ 4単位（75時間）並びに精神看護学実習2単位（90時間）とし、合計単位数は6単位（165時間）とする。

精神看護学概論では、精神看護学の基本的な考え方を学び、心の危機と危機の回避、危機からの回復の視点を理解する。

精神看護学援助論Ⅰでは、学校・職場等の社会生活の場における精神保健、看護師の役割と活動を理解する。

精神看護学援助論Ⅱでは、主な精神疾患の症状や治療と疾患が日常生活に及ぼす影響を理解するとともに、精神に障害を持つ対象への看護を理解する。

精神看護学援助論Ⅲでは、地域精神医療の意向とその基盤となる考え方を理解するとともに、精神に障害をもちながら地域で生活するための支援の実際を理解する。

精神看護学実習では、精神疾患が対象の日常生活に及ぼす影響や日常生活を維持するための看護を理解するとともに、精神に障害をもちながら地域で生活する対象の看護や、多職種の関係職種との連携支援について理解する。

精神看護学

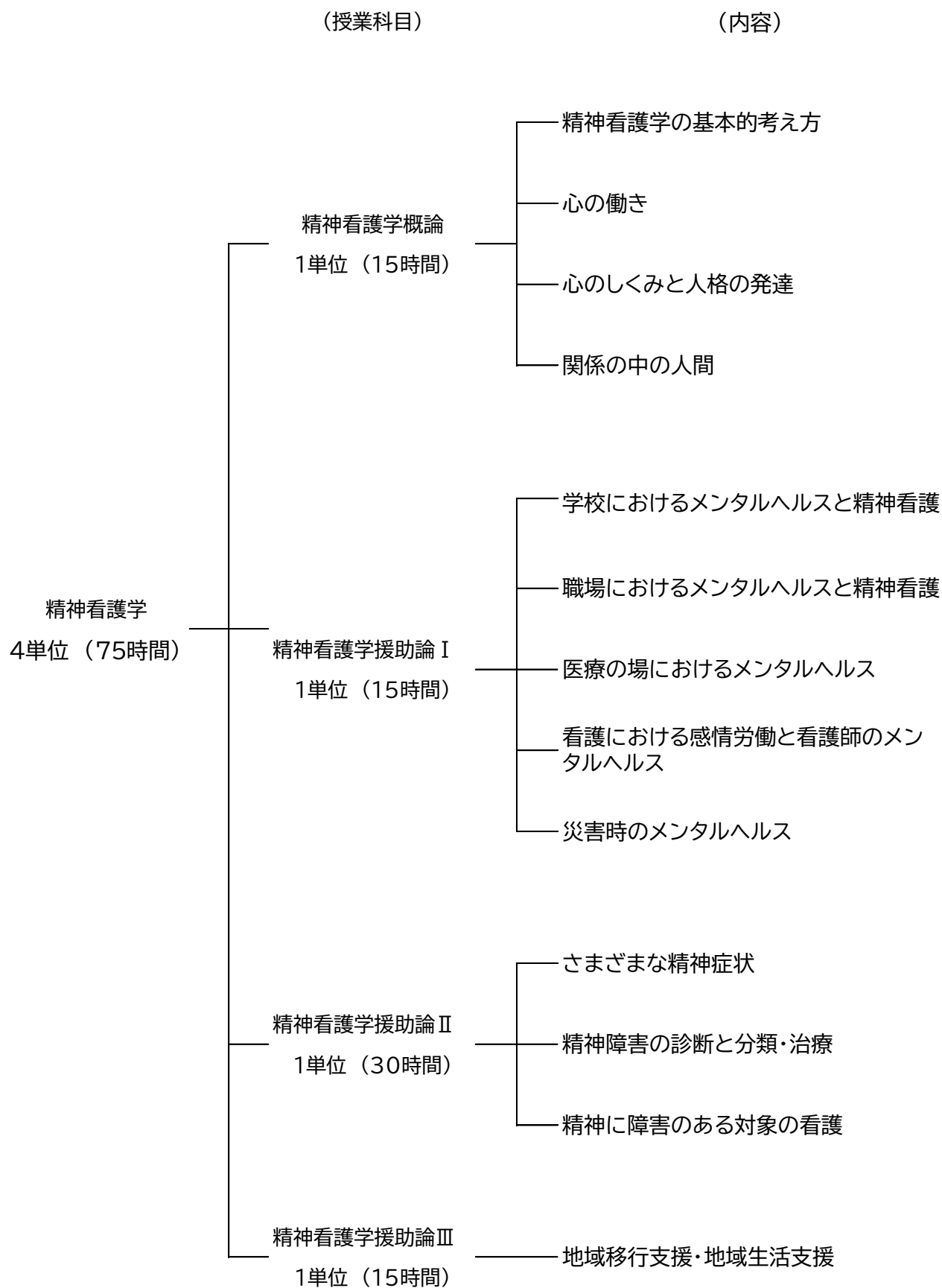
目 的

人間の心の働きを理解し，心の健康の保持増進および精神に障害をもつ人とその家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。

目 標

- 1 人間の心の発達と働きを理解する。
- 2 心の健康の保持増進および障害を予防するための看護を理解する。
- 3 精神障害をもつ人とその家族の特徴および障害に応じた看護を理解する。
- 4 精神保健医療福祉チームの連携のあり方と看護の役割を理解する。

精神看護学 科目構造



科目名	精神看護学概論						
科目区分	専門Ⅱ	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (15時間)	対象 年次	1年
担当者名	進藤 純平 (実務経験のある授業科目：臨床心理士) 川北 美沙 (実務経験のある授業科目：看護師)						
ねらい	精神看護学の基本的な考え方を学び、心の危機と危機の回避と回復の視点を理解する。						
回数	内 容						授業形態
1～4回	1 精神看護学の基本的な考え方 2 精神看護学で学ぶこと 3 心のケアと日本社会 (5大疾病) 4 精神看護の課題 1) 世界から見た日本の精神科医療の課題 2) 多様化する精神科医療のニーズ 3) 入院治療から地域生活支援へ 5 社会の中の精神障害 1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医学・精神医療の流れ 3) 精神障害と文化－多様性と普遍性 4) 精神障害と社会学 (1) 逸脱とスティグマ 社会的烙印 (2) 貧困と精神障害 (ソーシャルインクルージョン) 5) 看護師・医療者が法律を活用することで果たせる役割 6) 人権擁護						講義
5～7回	1 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 (1) ストレス反応・ストレッサー (2) ストレスの社会文化的側面 (ライフイベント) (3) 精神的危機と危機介入 (4) ストレスの対処 (コーピング) 3) 心的外傷 (トラウマ) と回復 (リカバリー) (1) トラウマ体験とサバイバーの心理 (2) 成長発達に及ぼす影響 (マルトリートメント) (3) レジリエンス 4) 精神障害というとらえ方 (1) 精神障害者の法的定義 (2) 国際生活機能分類 (ICF) の考え方 (3) 精神保健における予防概念						
(45分)							試験
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨む。						

科目名	精神看護学援助論Ⅰ（精神保健）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （15時 間）	対象 年次	2年
担当者名	高村 有加（実務経験のある授業科目：看護師） 綿谷 恵子（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	学校・職場などの社会生活の場における精神保健, 看護師の役割と活動を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
1～3回	1 学校におけるメンタルヘルスと精神看護 1) 学校におけるメンタルヘルス上の課題 2) チームとしての学校 3) 特別な配慮が必要な児童生徒の支援 (1) 発達障害と特別支援教育 2 職場におけるメンタルヘルスと精神看護 1) 働く人の心の健康問題の現状と予防対策 2) 職場復帰支援制度					講義	
4～6回	3 医療の場におけるメンタルヘルス 1) リエゾン精神看護の歴史 2) リエゾナーズの役割 3) リエゾナーズの活動の実際 4 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1) 看護師の不安と防衛 2) 感情労働としての看護 3) 看護師の感情ワーク 4) 看護における共感の光と影 5) 感情労働の代償と社会 6) 共感疲労予防						
7回	5 災害時のメンタルヘルス 1) 災害時の心理的反応 2) 災害時の心理的回復プロセス 3) 地域における災害時の心のケアのアプローチ 4) 支援者に対するメンタルヘルス対策						
(45分)						試験	
評価方法	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨むこと。						

科目名	精神看護学援助論Ⅱ（精神疾患の症状・検査・治療と看護）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 (時間数)	1 (30時 間)	対象 年次	2年
担当者名	岡田 剛史（実務経験のある授業科目：看護師） 中村 博大（実務経験のある授業科目：看護師） 福田 周一（実務経験のある授業科目：看護師） 稲川 優多（実務経験のある授業科目：看護師） 伊藤 可奈子（実務経験のある授業科目：看護師） 小川 寛之（実務経験のある授業科目：看護師） 宮田 吉則（実務経験のある授業科目：看護師） 横島 聡司（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	主な精神疾患の症状や治療と、疾患が日常生活に及ぼす影響を理解するとともに、精神に障害をもつ対象への看護を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
<対象理解> 1回	1 さまざまな精神症状 1) 思考の障害 2) 感情の障害 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害 5) 意識の障害 6) 記憶の障害 7) 局在症状					講義	
2～4回	2 精神障害の診断と分類 1) 診断と疾病分類 2) 統合失調症 3) 気分〔感情〕障害〔双極性障害および関連障害群、抑うつ障害群〕 4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (1) 恐怖症性不安障害 (2) 強迫性障害①強迫観念②強迫行為 (3) 重度ストレス反応及び適応障害 ① 急性ストレス障害 (ASD) ② 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) ③ 適応障害 5) 精神作用物質による精神および行動の障害 (1) アルコール症 (2) ゲーム障害 6) 各発達段階で現れやすい精神障害・心的不調 (1) 発達障害 ①自閉症スペクトラム障害 (ASD) ②注意欠如・多動生障害 (ADHD) (2) 摂食障害 (3) パーソナリティ障害						
5回	3 主な治療法 1) 精神療法 2) 薬物療法 3) 電気けいれん療法 3) 環境療法・社会療法						

<p><看護> 1・2回</p>	<p>1 ケアの人間関係 1) ケアの前提 2) ケアの原則 3) ケアの方法 4) 関係をアセスメントする (1) プロセスレコードの活用と書き方・読み方 5) 患者 - 看護師関係における感情体験</p>	<p>講義</p>
<p>3回</p>	<p>2 入院治療の意味 1) 入院という体験 (1) 入院のかたち ① 任意入院 ② 医療保護入院 ③ 措置入院 ④ 応急入院 (2) 精神科病棟の特徴 (閉鎖・開放病棟・隔離室) 2) 治療の器としての病院・病棟 (1) 入院のメリット・デメリット (2) 治療的環境としての病棟 (3) 入院中の観察とアセスメント</p>	
<p>4・5回</p>	<p>3 精神科における身体ケア 1) 急性期・回復期・慢性期における身体ケア 2) 日常生活における身体ケア 3) 睡眠とケア 4 精神科の治療に伴う身体ケア 1) 薬物療法を受ける患者のケア ① 抗精神病薬の有害反応と看護 ② 服用初期あるいは増量の際にみられる有害反応 ③ 生命の危険を伴う有害反応 2) 電気けいれん療法を受ける患者のケア 5 身体合併症のアセスメントとケア</p>	
<p>6・7回 (45分)</p>	<p>6 リスクマネジメント 1) 行動制限と処遇の基準 2) 緊急事態の対処</p>	
<p>8～10回 (45分)</p>	<p>7 回復を支援する 1) 回復 (リカバリー) のビジョン 2) 治療の場におけるリカバリーと看護の視点 (1) 急性期病棟の事例 (2) 慢性期病棟の事例 3) リカバリーを促す環境 4) 回復のためのプログラム (1) グループプログラム (2) 疾病管理とリカバリー (IMR) (3) ソーシャルスキルトレーニング (SST) (4) 認知行動療法 (CBT) (5) 当事者研究・マインドフルネス認知療法</p>	
<p>(45分)</p>		<p>試験</p>
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験で評価する。</p>	
<p>必須資料</p>	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院)</p>	
<p>参考資料</p>	<p>・授業資料は適宜印刷して配布する。</p>	
<p>履修上の 留意事項</p>	<p>・科目内容が細分化され、複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨むこと。</p>	

科目名	精神看護学援助論Ⅲ（地域移行支援・地域生活支援）						
科目区分	専門	必修 区分	必修	単位数 （時間数）	1 （15時間）	対象 年次	2年
担当者名	飯泉 祥生（実務経験のある授業科目：看護師） 村井 啓子（実務経験のある授業科目：看護師）						
ねらい	地域精神医療の移行とその基盤となる考え方を理解するとともに、精神に障害を持ちながら地域で生活するための支援の実際を理解する。						
回数	内 容					授業形態	
1・2回	1 退院に向けての支援とその実際 1) 長期入院がもたらすもの 2) 地域生活への橋渡し (1) 入院生活と地域生活のギャップ (2) 外出・外泊の意味 (3) 退院前訪問 3) 多職種連携による地域移行支援 4) 患者-看護師関係の終わり方					講義	
3～7回	2 地域におけるケアと支援 1) 病院から地域への移行 2) 地域における生活支援の方法 (1) 地域で精神障害者を支援する際の原則 (2) 地域生活を支えるシステムと社会資源 障害者総合支援法による障害福祉サービス ピアサポート・ストレングスモデル エンパワーメント 3) 地域におけるケアの方法と実際 (1) ケアマネジメント (2) アウトリーチと多職種連携 (3) 複合的な問題をかかえた長期入院患者の退院支援 (4) 再燃・再発の危機の対処と克服 (5) 家族の支援						
(45分)						試験	
評価方法及び観点	筆記試験で評価する。						
必須資料 (テキスト等)	系統看護学講座 専門分野Ⅱ精神看護学②【精神看護の展開】(医学書院) 系統看護学講座 別冊 精神保健福祉(医学書院)						
参考資料	・授業資料は適宜印刷して配布する。						
履修上の 留意事項	・複数の講師が担当するので、出席時間は自己管理し、体調を整えて、欠席しないように授業に臨む。						